

学校評議員会議録

開催日時	令和7年2月19日（水）16：00～17：05		
会場	北海道札幌東高等学校 校長室		
出席者数	学校評議員 4名	学校職員	5名
出席者名	武田 奈津子 酒井 誉介 川上 敬 小笠原 史佳	校長 須藤 克志 副校長 高橋 昌宏 全日教頭 荻田 英樹 定時教頭 鶴野 憲之 事務長 鈴木 貴	

会議次第・議事内容

- 1 開会
- 2 校長挨拶
- 3 本校教育活動
 - (1) 全日制概況説明（全日制教頭）
 - (2) 定時制概況説明（定時制教頭）
- 4 評議（感想、質問等の交換）○ 評議員から ● 本校職員から
 - 全日制については、学校として進むべき扉が開いて一步も二歩も前進した印象を受けた。また、教育相談部の立ち上げが学校としての最重要項目の一つと理解したが、それが実践されて良かった。定時制については、説明の中であった自分で発言することは難しくても端末で書き込むことはできるという様子は想像できる。それらを発展させて、校内の取組を社会に見立ててトレーニングしていくのが良いのではないかと。
 - ご助言のとおり、校内の様々な取組の中で生徒が色々なことを身に付けていけるよう工夫や改善をしていきたい。
 - スクールミッション・ポリシーについて、わかりやすくとても良いと思う。全日制にも定時制にも言えることだが、本校の生徒は（特に全日制は）大学に進学すると思うが、「大学に行かない」という価値観も存在していて大学に進むことだけが全てではないことを理解させることも必要ではないか。「主体的に生きていく」ための一つの手段が大学進学であり「生き方は」「幸せとは」を問いかけることも重要だと考える。
 - 「頑張ること」と頑張りすぎることに違いを意識することも重要である。
 - ご助言は真理だと考える。今年度から開始したキャリアトークは「自分の生き方を考える機会」の創出を意識して実践している。今後も継続したい。
 - 全日制・定時制ともに身に付けさせたい力を明確化したことは大変良いと思う。同時に学校としての方向性も定まったと理解した。（意見として）せっかく決まったポリシーであれば、学校の様々な取組について、「この力を伸ばすための取組」であることを明示していくのはどうか。どういう力が身に付いていくのかを明確にすることによって、本校の存在価値を高めていくことに繋がると考える。（札幌東高校のブランディング化）
 - 定時制において、経験と自信を積み重ねることの重要性は同感である。そのためには指導の個別最適化を図っていかなければならないが、物理的なものだけでなく、様々なコストパフォーマンスを考慮しなければ実現しないため、なかなか実践は難しいと思うが、多様性への対応にも繋がるため推進できると良いと思う。
 - 非常に参考になるご助言として、実践に向けて進めていきたい。
 - この1年評議員を務めてきてあっという間だったため、きっと高校3年（定時は4年）もあっという間だろうと推察する。その中で、今年度のように取り組むべき事を生徒にかみ砕いて表現したことは非常に重要だと考える。不登校生徒が増えている時世を鑑みると、子どもたちにとっても生きづらい世の中になってしまっているように思うが、先ほど出ていた自分の意見を表現する際に端末を上手に活用したり等が重要だと考える。
 - ご指摘のとおり、端末だと表現できる生徒も多いため、上手な活用を進めたい。また、内容も手書きでは否定的な意見の生徒も打ち込む際に考えるためか、肯定的なものの方に変わる生徒が増えている点も見逃せない。よりよい活用を推進していく。
 - 生徒の成長が見て取れるのは職員として嬉しい。一方でもっとやれるのではないかととも思うため、引き続き推進していく。
- 5 連絡事項など
 - (1) 本校大規模改修工事について
 - (2) 学校関係者評価の依頼について
- 6 校長挨拶
- 7 閉会

上記のとおり会議を開催した。

令和7年2月21日（金）
北海道札幌東高等学校長 須藤 克志